

やんばうあ～ねっと 2014年10月 第29号

琉球バス研修

きらら 希輝々と 琉球バスさんとでノンステップバ

スに乗る時の乗車や車いすの固定の

しかた たがくにん こうしゅうかい 仕方をお互いに確認する講習会を

おこな 行いました。



りようさいすを固定するのに、ノンステップバスを利用する際に少し気になっていたのが、バスに車いすを固定するのに、

じかん時間がかかっていたので、乗っているお客様さんを待たせたことがあって、もう少し早く固定す

ることができないかなあって思っていました。

車いすによって固定する位置とか場所が違ってくるので、バス会社の方たちも

たいへん 大変だということがわかりました。

あと、視覚障がい者の方が盲導犬と一緒に乗った際の座る場所の位置を確認

よおもできたのも良かったと思いました。

定期的に今回みたいに、お互い確認する機会を作つていけば、運転手さんが慌

てて固定することもないし、また、自分たちもバスを待たしてしまっていることも気にすることなく、お客様さんもあまり待たせることなく気持ちよくバスに乗れるかなと思いました。By:R・H

第10回フィールドトリップLP開催!!

9月13日に希輝々による夏の恒例イ

ベント「フィールドトリップ I L P」が開催されました！

今回の開催場所は21世紀の森ビ

ーチで、総勢150名ほどの参加者が

あつ
集まってくれました。

前日までは生憎の天気が続き、私たち主催側は「晴れるかな…、できるかな…」と

ずっと不安を抱えながら当日を迎えた。

ひ
その日になると、見事に天気は晴れました。天候に恵まれたのも、きっと皆さんの熱意がお

てんとさま
天道様に届いたんでしうね☆



このイベント「フィールドトリップ I L P」の
もくてき しょうがい かたがた しゃかい
目的は、障害のある方々の社会
せいかつ だいいっぽ まいとしおこな
生活への第一歩として毎年行って
かいすいよく ちぎよ ほうりゅう
います。海水浴や稚魚の放流、BB



Qにレクリエーションなどといった、楽しみの場

から、人間関係の構築を高めて、自己信頼の回復へといった学びが臨
かんが
めると考えています。

こんかい じゅんちょう すす かくじ ゆういぎ じかん す さんか
今回もイベントは順調に進んでいき、各自で有意義な時間を過ごしました。参加して
くれた皆さん、協力してくださいましたダスキン沖縄エリア企業団の皆さんや、当日にい
ろいろとサポートしてくれた方々との力が一つとなって、今回も成功のうちに収める
ことができました。ありがとうございました。

さんか くだ みな とど
参加して下さった皆さんから届いた

かんそう いちぶ しょうかい
感想を一部紹介します。

★チアボートに乗って海に入ってヨー



たの うみ はい
楽しかったです。チアボートは台数が少

なかつたので、みんなが乗れるように譲ってあげました。今年はカメラ係もやつたので忙しか
ったです。来年はもっとたくさんイベントのお手伝いをしたいです。・T)

第53回手をつなぐ育成会沖縄大会

さつ がつ にち だい かい
去った8月30、31日に第53回

きゅうしゅうちくしゅ いくせいかい
九州地区手をつなぐ育成会

おきなわたいかい かいさい
沖縄大会が開催されました。この

たいかい けんりょうご ちいき きょうせい
大会は「権利擁護は地域との共生



しゃかい じつけん しゅだい
社会の実現から」という主題のもとに

かいさい きゅうしゅうちく たとどうふけん おきなわほんとう りとう ふく
開催され、九州地区的他都道府県や、沖縄本島においても離島などを含めた

かた かずおおさんか
方が数多く参加されていました。

て いくせいかい ちてきしようがい
この手をつなぐ育成会は知的障害

も こ おや こうせい
をお持ちのお子さんの親たちで構成されて

なか たいかい にちかん
います。その中で、大会2日間あった

にちめ ぶんかかい
うち、1日目は分科会がありました。ぼくは

ぶんかかい なか だい ぶんかかい
その分科会の中の第3分科会の

ちいき せいかつ く さんか
「地域、生活、暮らし」に参加させていただきました。発表者は他県の育成会

かいちょう そだんしえん かた こんじっせん そだん じりつ
会長や、相談支援センターの方などで、今実践している相談ネットワークや自立



支援の話がありました。まず、社会資源や福祉サービスの情報提供をする事、

本人に適りたい事を決めてもらう事、住む地域の方と馴染ませる取り組みをする事、触れ

合うイベントに参加する事等でまず顔を知って頂くこと、コミュニケーションが厳しい人であ

れば日々日常生活で常に要するものを絵と文字盤にして使いコミュニケーションをとれるよ

うにすること、当事者同士がつながっていくという事も重要なカギをしめているのだなあと感じ

ました。それは自立生活している当事者たちが実践しているから奥深く理解し合えるの

だと感じさせられました。

また親からは、その子のために親が元気

うちに親亡きあととのネットワークや地域

生き生きできるようなエンパワーメントを行なう

ことが重要だと感じました。



われわれが関わっていくうえで、当事者本人たちは何をどうすればいいか、どのように

相談すればいいのか解らないところもあるはずなので、その人たちの立場にたってどういうふう

に気持ちを引き出していくべきが重要なになってくるのではないかと思いました。